

部会活動報告

「子どもとメディア研究会」 第33回学習会の報告

現役・飯塚直也さん（前橋工業高校）の わかりやすい ICT 報告に納得（+_+）

去る7月7日（土）13:30から、教育文化フォーラムにて、標記の定例学習会がおこなわれました。参加者8名。報告者は前橋工業高校の飯塚直也さんでした。内容は「ICTと情報教育…基礎の基礎」+「美術の実践」でした。具体的には、1. インターネットとは 2. 情報をあやつる機器 3. 情報化社会のメリット・デメリット 4. 情報教育とは 5. 情報化社会に生きるために 6. 美術実践 という内容でした。飯塚さんの ICT に関する深い造詣とそれを生かした美術の実践報告は大いに参考になりました。

色々あるんですね～

1990年代前半からわずか20年ほどでこれまでに進化を遂げたインターネット、まさに世界が一つの脳になったよう。WWWの意味、ウェブサイト・Eメール・ブログ・フェイスブック・ツイッター・音楽、映画配信・無料電話など色々話して頂きました。用途も広いんですね。そしてその他の機器も！（もう頭は危機的！）ケータイ・スマートフォン・タブレットPC・ブックリーダー・スマートテレビ・スマート家電・ウェアラブルPCなどなど。簡潔明瞭に説明してくれました。

ナルホド！

情報化社会のメリット・デメリット

メリットとして、様々な情報、様々な価値観・思想・発想の共有、経済の活性化、時間・距離を越えて人が結びつける、国境を越えた交流、政治活動への波及（例えばアラブの春）、子ども・高齢者・障がい者への活用。デメリットとして、色々な情報が入ってくるので共有したくない情報もある——真偽を判別する能力が必要、昔ながらの仕事が衰退する、本来の人のつながりが希薄になる——むしろ孤立化する、固有の

文化消滅——思想・宗教のぶつかり合いが激しくなる、情報格差・デジタルデバイドによる貧富の差、テロリストの悪用、感情的なナショナリズム、不必要な情報へのアクセス、いじめの誘発、アダルト情報や裏社会の情報に安易に入れる。なるほど、葉っぱにも裏表。



アイパッドの情報をスクリーンに映し出して説明する飯塚直也先生

美術の実践では、アイパッドを利用して生徒を眠らせない、飽きさせない！美術作品の説明もアイパッドを最大限利用！

アップルのタブレット PC、アイパッド（マウスやキーボードのない小型ノートパソコン）を利用してビジュアル授業（本日のように）により、生徒を引きつける授業を实践。また、従来では成し得なかった作品の説明も、アイパッドの利用により実現。今後さらに詳しく実践を報告して頂ければと思います。

質疑・応答、交流

スマートフォンを持つべきか、ツイッターの登録は、ホームページの指導、本当にインターネットは分からないことが分かるのか、映像により本当に集中力がつくのか、消費者教育が弱いのでは、近隣とのつながりが弱いからツイッターのようなものが流行るのでは、などの質問・意見が出されました。

“昔の青年”の多いメディ研部員にとっては大変刺激のある内容でした。“便利”の裏には落とし穴もあるわけで、情報化が独り歩きせぬよう、我々が批判的につき合ってゆく必要があります。さらに現場との交流を深めてゆきたいと思います。

《文責・平井敏久》